

カナダの金融市場動向 Weekly Report

【2019年1月5日～2019年1月11日の推移】

【1】先週の回顧

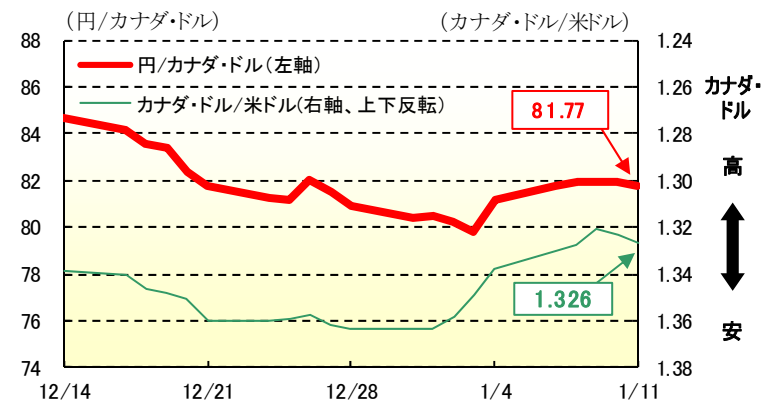
先週のカナダ・ドルは、対円で上昇しました。カナダ5年国債利回りも上昇しました。

米中の貿易協議に対する楽観的な見方から米国株が上昇し、投資家のリスク選好姿勢が強まったことなどを背景にカナダの通貨、金利は上昇しました。また、原油価格が上昇したことも相場を後押ししました。

先週、カナダ銀行（中央銀行）の金融政策決定会合が開催され、市場の予想通り、政策金利は据え置きとなりました。議事録で追加利上げの可能性について言及されたことから一時、カナダの通貨、金利は急伸したものの、原油価格の下落を背景に2019年の経済成長率を下方修正する等、軟調な内容も散見されたため、上昇幅を縮める展開になりました。

【カナダ・ドル 為替推移】

(2018年12月14日～2019年1月11日)



※四捨五入の関係で数値とグラフの目盛りが一致しない場合があります。

(出所) Bloomberg等より大和投資信託作成

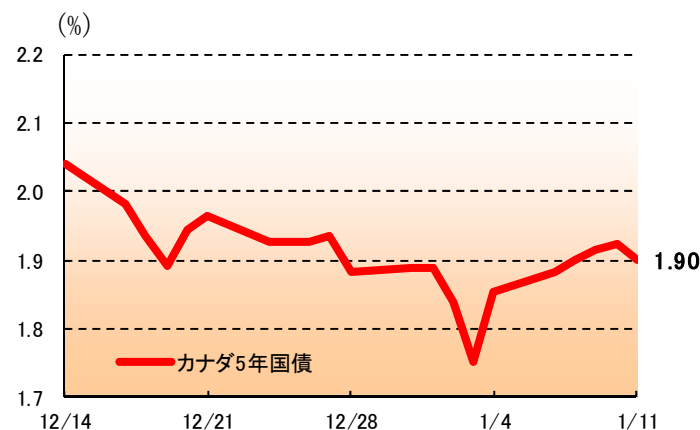
【2】今週の見通し

今週、カナダでは、2018年12月のCPI(消費者物価指数)の発表が予定されています。原油価格の下落を受けて、低下基調になっているものの、今回に関しては前回と横ばいの結果が予想されています。また、今週に関しては、それほど重要な経済指標の発表が予定されておらず、市場では株価や原油価格の動向に注目が集まると見えています。

足元の株価、原油価格に関しては、過度なリスク回避傾向の巻き戻しや中国政府が景気下支えに動くとの思惑が広がったことなどを背景に反発しており、値を戻す展開が続くと見込んでいます。

【カナダ 金利推移】

(2018年12月14日～2019年1月11日)



(出所) Bloomberg等より大和投資信託作成

当資料のお取り扱いにおけるご注意

■当資料は、ファンドの状況や関連する情報等をお知らせするために大和投資信託により作成されたものであり、勧誘を目的としたものではありません。■当資料は、各種の信頼できると考えられる情報源から作成していますが、その正確性・完全性が保証されているものではありません。■当資料の中で記載されている内容、数値、図表、意見等は当資料作成時点のものであり、将来の成果を示唆・保証するものではなく、また今後予告なく変更されることがあります。■当資料中における運用実績等は、過去の実績および結果を示したものであり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。■当資料の中で個別企業名が記載されている場合、それらはあくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。販売会社等についてのお問い合わせ⇒大和投資信託フリーダイヤル0120-106212(営業日の9:00～17:00) HP <https://www.daiwa-am.co.jp/>